

愛媛県立医療技術大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
令和6年度自己点検・評価について

自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>	
プログラムの履修・修得状況	本学では、教務システムおよび学修支援システムを活用し、本教育プログラムを構成する「情報科学」を含めた全科目の履修状況、単位修得状況、成績分布を継続的に把握している。これらのデータは、統計的に処理された上で各学科にフィードバックされ、本委員会が中心となって全体の状況を分析・整理している。得られた結果は、次年度の教育内容の改善や学生支援策の立案に活用されており、学修成果の向上に資するよう努めている。さらに、学期末にはディプロマ・ポリシー（DP）の達成状況について学生アンケートを実施しており、これにより得られた学修者側からの評価も次年度の教育改善に反映させている。
学修成果	本学では、本教育プログラムを構成する科目を含め、ほぼ全ての科目において学生による授業評価アンケートを実施している。各科目の担当教員は、アンケート結果を分析し、翌年度の授業改善に活用することとしている。収集されたアンケート結果は統計的に処理されたうえで年度ごとに整理され、学科単位で情報共有されており、これにより授業改善の取り組みが科目レベル、プログラムレベル、さらには全学レベルにおいて共有・推進される体制が構築されている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムに対応する授業においては、各回終了後に本学の学修支援システムを用いて、理解度に関するアンケートを実施している。その結果、「大変よく理解できた」と回答した学生は各回で46.2%～78.6%、「やや理解できた」と回答した学生は20.2%～46.2%であり、両者を合わせると、92.3%～98.9%の学生が内容を理解できたと自己評価している。これにより、全体として高い理解度と授業への満足度が得られていることがうかがえる。また、自由記述欄ではAIに関するコメントが多く見られ、学生の関心の高さがうかがえた。こうした定性的なフィードバックも踏まえ、今後の授業内容に活かしていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムは全学必修であり、当該科目の授業内で本教育プログラムに関する説明を行っている。また、本学ホームページを通じて内容の周知を行っている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムに対応する科目は全学必修として位置づけられており、すべての学生が履修する体制が整えられていることから、履修率100%を確実に達成できる。また、履修者の状況や教育の進捗、学修内容の理解度・満足度については、授業終了後に学修支援システム上で実施される授業評価アンケートや学期末のディプロマ・ポリシー（DP）アンケートを通じて継続的に把握している。これらの結果をもとに、授業内容や運営方法の改善を随時行っており、プログラムの質の維持と学修成果の向上に繋げている。
<b>学外からの視点</b>	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは2024年度から実施されたものであり、現時点では卒業生を輩出していない。しかし、授業に参加した外部講師からは、AIや情報セキュリティなどの新しい分野を積極的に学ぶ学生の姿勢に対して高い評価が寄せられており、本プログラムが医療の発展に資する人材育成に繋がることが期待されている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムでは、第15回の授業において、実務家教員を外部講師として招聘して講義を実施した。講師からは、学生たちが大変集中して授業に取り組んでおり、意欲的な姿勢が非常に素晴らしいとの高い評価を得た。また、授業後に実施した学生アンケートでは、理解度について「大変よく理解できた」と回答した学生が78.6%、満足度について「大変満足できた」と回答した学生が82.1%に達した。自由記述欄においても、「貴重な機会になった」「課題を自ら発見し、努力を怠らないようにしたい」など、前向きな意見が多数寄せられ、学生の主体的な学びへの意識向上がうかがえた。今後も、産業界・実務家の視点を取り入れた授業運営を継続し、学生の実践的な能力育成に努めていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学には医療従事者を目指す学生が在籍しており、非常に高い目的意識を持って学修に取り組んでいる。医療分野においてもデータサイエンスやAIの活用は今後不可欠となることから、本教育プログラムではデータ分析やAIに関する基礎知識を体系的に学び、全体像を俯瞰的に理解できる構成としている。授業後のアンケートでは、「AI技術の可能性に興味を持った」「メリットやデメリットも学ばなければならない」といった意見が寄せられ、学生が本教育プログラムを主体的に学修に取り組めたことが確認されている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること  ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本教育プログラムでは、AIの歴史的背景を学びつつ、近年急速に発展している生成AIについても授業内容に取り入れた。特に生成AIは学生の関心が高く、実際にツールに触れて体験する機会を設けることで、生成AIの特徴や活用方法を直感的に理解させる工夫を行った。あわせて、生成AIの利用に伴うリスクや倫理的課題についても注意喚起を行い、メリットとデメリットの両面から多角的に考察する視点を育成することを目指した。こうした取り組みにより、社会の技術革新を反映した最新の知識を分かりやすく提供しつつ、教育内容の水準維持と向上を図っている。今後も、社会動向や技術の進展に応じて教育内容を継続的に見直し、学生の学びを深化させる授業設計に努める。